

慶応三年六月六日より慶応三年六月十日まで

P8310689right

来り大鮑(あわび)、こち賀贈す、酒肴を勧め賀銀並鳥の子(\*)代(鳴海紋り壱反)遣す、酒肴を勧め、小川(達)より

宮川(清八)なる者の義、頼越し自掌の扇一箱贈らる

七日丑 雨断続

宅調、大塚(藤)、豊岡(久)、山内(昌)、山口(頭)初て来り面す、富沢より転進賀赤飯次分とも贈り来る

鯉節袋を酬(むく)う、藤山稽古に来る、転役賀糕使の支、式軒並才輔、久(左)へ遣す、一桐油屋より魚七尾賀贈し来る

八日寅 雨意

稲垣(良)灌口(小)、小板(準)、猪瀬(豊)、町田(耕)来り面す、出 殿、小笠原(伊勢)高宿所(屋敷)書付頼持、

を以御目付へ達す、此度出立の義坂地同役へ表状内状とも、御右筆所差込を頼む、番町隠居小品持来、洋駒を借行し旨、寺山小君賀糕の謝来り蒸菓持来旨、松浪家内

P8310689left

花豆、菓子折等持来、相当の酬品(象牙根附)遣旨、細谷(秀)来る、転役賀糕使のもの極三朝へ遣す、

番町より柏葉糕(贈り越す)持来候旨、鎌児、次郎と共に小品を携え礫川へ行き姑を伴い帰る、  
袱地縮緬

花豆、残等贈らる、明日墨邸行の催しあり

九日卯 雨意

宅調、松浪(権)、高部(良)、柳生(半)、山中(湊)、浜中(覚)来り面す、田畑()小品持来、笠原(常)来る以上

何れも志願筋也、家眷(\*)残す、礫姑を携え墨邸へ舟行す、ふん追して行き兩人共一泊  
十日辰 雨

加藤(房)、木村(重)、山縣(精)来り面す、出 殿、(坂地日向伊藤より転賀状届く)英館サトウより  
燈明台代其の外為替金の義に付

書翰差越、右は当掛り木村(兵)外壱人へ可達旨、返書遣す、快翁方より過日の釣台油たん等返し

\*1:鳥の子、和紙の一種で紙質がなめらかで卵のような光沢がある。

\*2:家眷(かけん) 一族一門

印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。